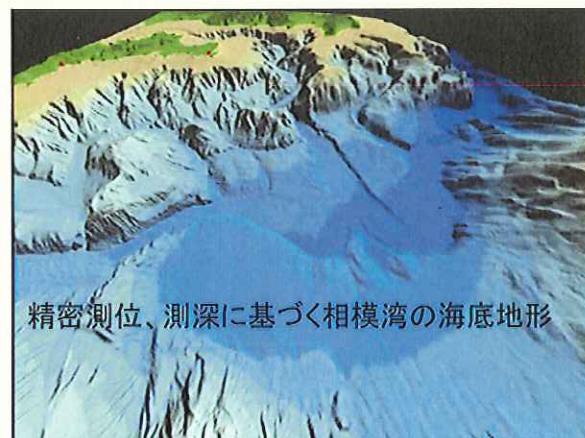
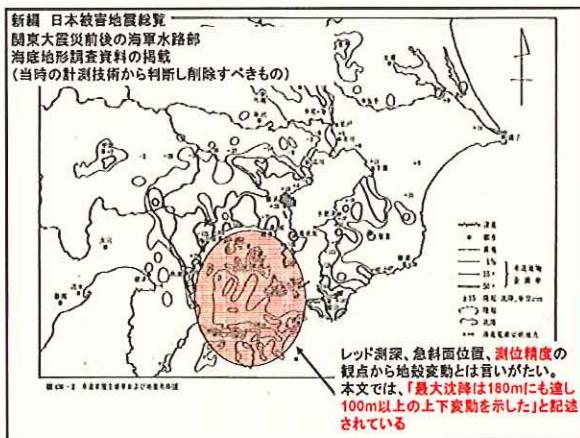
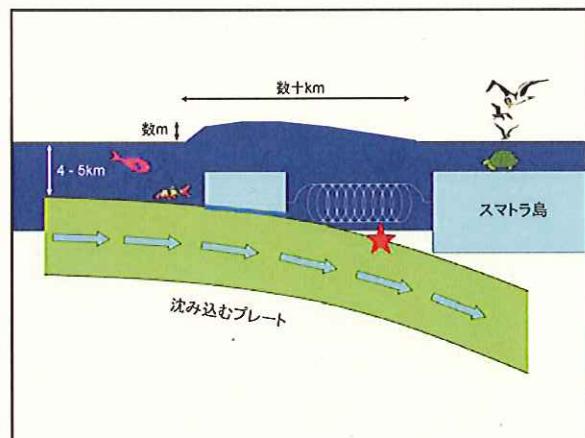


利用者からみた次世代の測位・地理情報基盤への期待
その2

「海面の精密測位-地震津波防災と海底の測地・マッピング技術開発-」

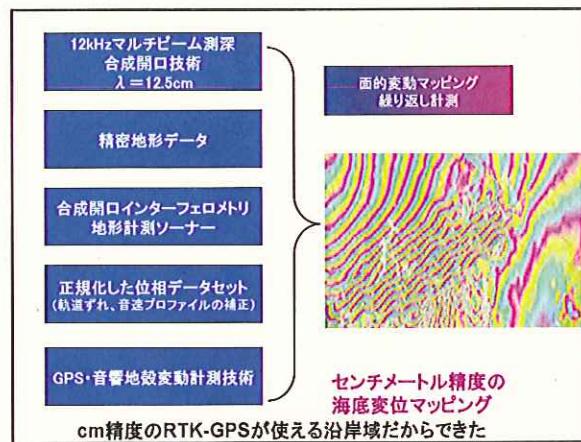
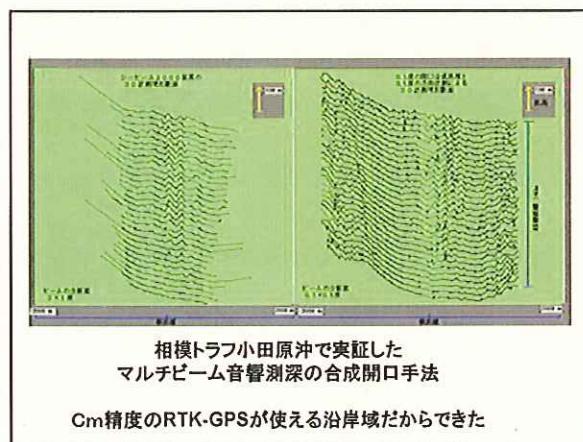
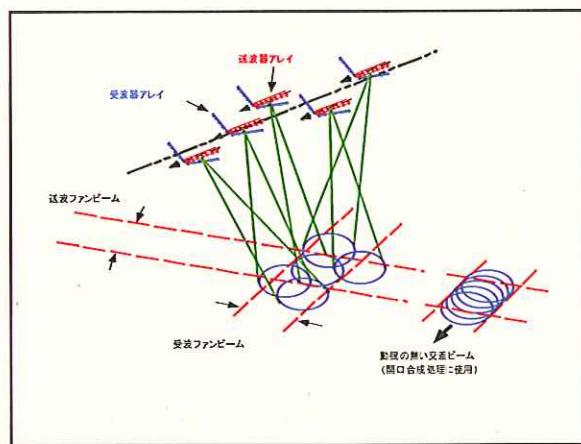
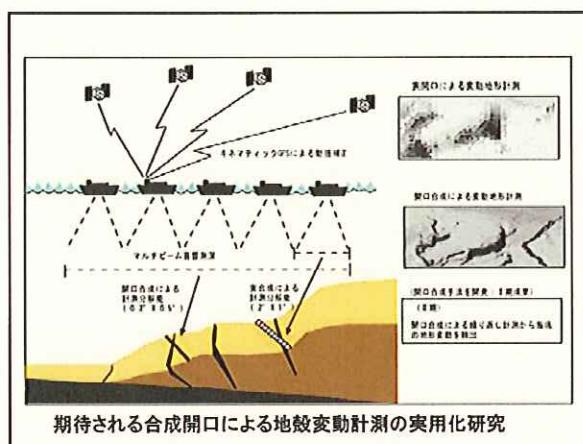
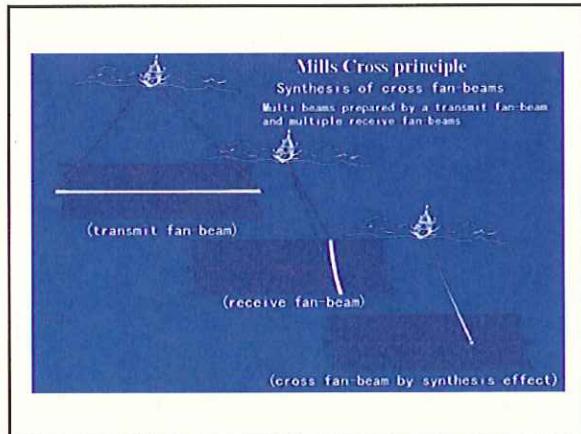
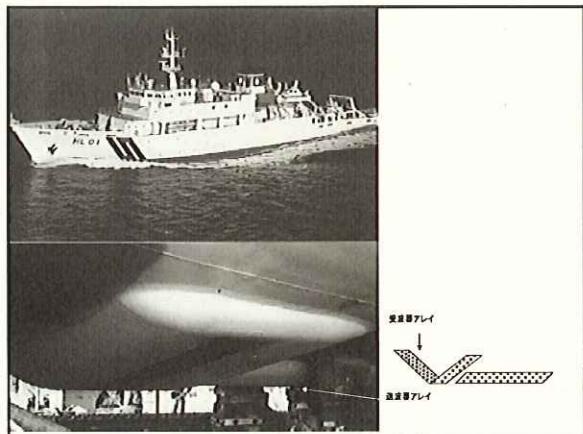
東京大学生産技術研究所
清 環

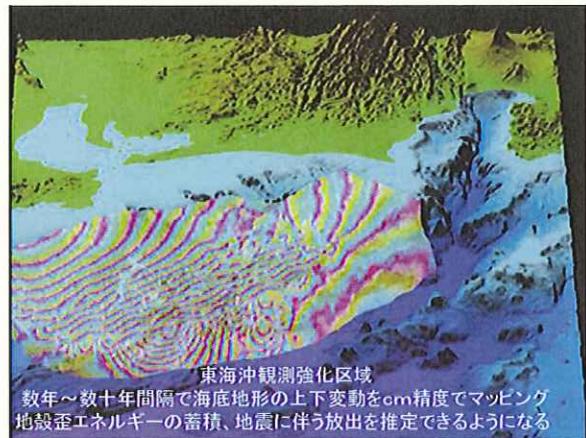
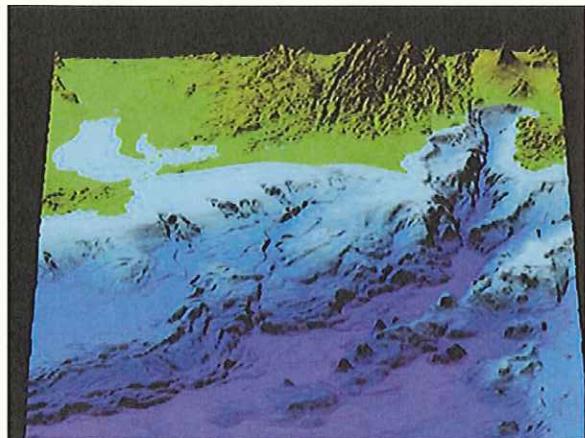
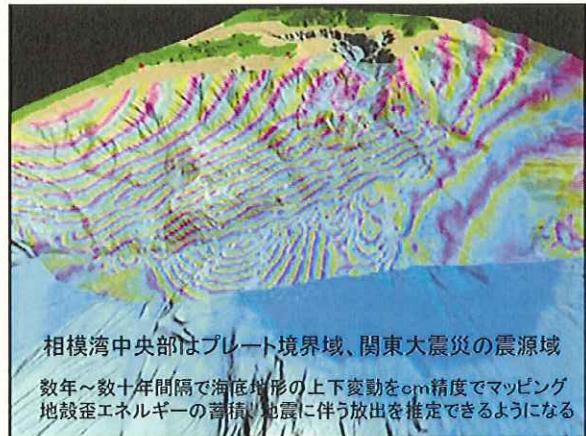
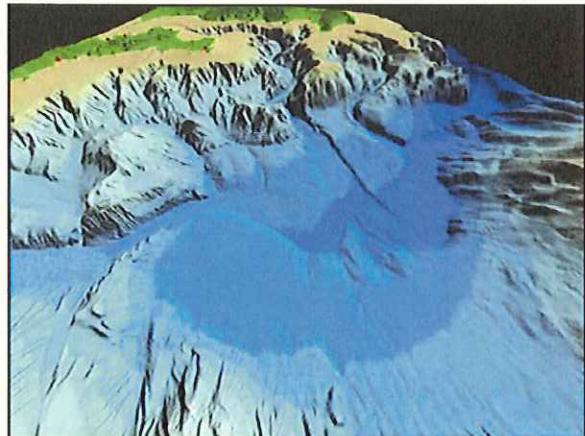
現在、海洋には精密測位の基準点が無い
海洋海面におけるセンチメートル測位技術が
地震津波防災技術開発の飛躍的発展のトリ
ガーとなる



数年～数十年間隔の 繰り返し計測による 合成開口インターフェロメトリ観測 技術の開発研究

(I) 地震予知に期待される計測技術
これまでの技術開発と
期待される近未来技術





- 基本原理は、数年～数10年隔てて海面において1-2cmぐらいの繰り返し精度で同じ軌道を走りながら、合成開口ソーナー画像を計測し、位相差を比較する
- r2D4のような海中ロボットが必要
- 海面における1-2cmの測位精度が必要

沖合100kmに展開された
海底基準点ネットワークの測地
精度向上、上下変位の計測

海洋プレート内部の動きを捉える

(II) 地震予知に期待される計測技術
これまでの技術開発と
期待される近未来技術

